



事例紹介

北海道 浦河町教育委員会

「自ら考え学ぶ」子どもの育成 ～将来を担う子どもたちのために～



サラブレットや競走馬の調教で有名な浦河町では、今年度、町内の全小中学生1人1台(約1,000台)のタブレットを配布し、子どもたちの基礎学力定着のために、eライブラリを使った反復学習に取り組んでいます。

運用 基礎学力の定着にドリルで反復学習

導入1年目の今年は『タブレットに慣れること』を目標に、朝学習と放課後の時間で国語と算数・数学のドリル問題に取り組んでいます。今回は岡内 猛教育長に、導入のねらいや子どもたちへの思いについてお話を伺いました。

浦河町 岡内 猛 教育長のお話

▼ これから浦河町を担う子どもたちへ

浦河町のこれからを担っていくのは、今を生き、将来を生きる子どもたちです。その子どもたちに私たちができることは、義務教育期間のうちに、**自分に自信をもち、強く生き抜くための力を**つけて、将来の浦河町を担う**たくましい人材**を育成していくことだと考えています。

そこで、**基礎学力の定着と底上げ**を目指し、タブレットの導入を決めました。学力の高い子も勉強につまずきがちな子も全員がeライブラリのドリルを使って自分に合わせた内容を繰り返し学習をすることで、**全体の学力を底上げし、基礎基本を身につけていく**と信じています。



岡内 猛 教育長

今後は効果を検証しつつ、しっかり成果を出していくことで、子どもたちを支える町の方々や、子どもたちのためにふるさと納税を納めていただいた方々への恩返しになればと考えています。

▼ 学習履歴を活かし、自ら考え、学ぶ、自立した子どもを育てたい

eライブラリの大きな利点の一つは、子どもたち一人ひとりの学習履歴を残せることです。**今の自分の状況や課題を把握していない**ことには、次には繋がらないと思っています。低学年のうちは楽しさを学び、高学年になるにつれて、この履歴を使って自分に足りないものを分析して補完していくような、**自立した考え方を持つ子どもを育成**したいと思います。

● 現場での活用のしやすさが決め手！

タブレットの導入が決まり、ソフトを選定する検討委員会の先生方からも「eライブラリが良い」との評価を頂いたそうです。

「小学校から中学校までの多くの基礎的な問題が揃っているため、**活用のしやすさや教材の豊富さ**に加え、**苦手単元への戻りやすさ、そして次のレベルの教材への進みやすさ**などが評価されたのだと思います」と岡内教育長。

子どもたちの実態を踏まえた、現場での使いやすさが採用の決め手になったそうです。



▲浦河町立堺町小学校でのドリル学習の様子

朝学習 10分の朝ドリルで1日がスタート！

浦河町立堺町小学校では全学年を対象に、朝学習でeライブラリを使ったドリル学習を行っています。

● 月・水・金の朝はタブレットのドリルタイム！

堺町小学校では週に3日、朝の会の前に10分間のドリル学習を行っています。子どもたちは朝のチャイムが鳴るとタブレットを自分たちで取りに行き、国語か算数の中から問題を選んでドリルに挑戦していきます。

子どもたちは先生がいなくても時間通りにスタートし、最後まで集中して学習に取り組んでいるそうです。

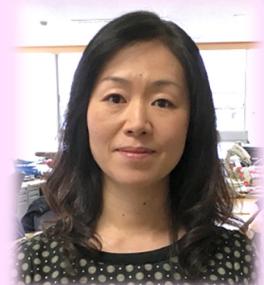
運用は学年ごとに工夫しているそうですが、子どもたちにとって「**自分の大事なタブレット**」という意識が既に芽生えているそうです。



堺町小学校 大城 郁子 教頭先生のお話

今年度はまず子どもたちがタブレットに慣れ、操作に困らないことを目標とし、各学年で少なくとも週に1回以上はeライブラリを使ったドリル学習に取り組み、タブレットに触れる機会を作っています。

タブレットで学習をしている子どもたちはとても嬉しそうで、操作に慣れている子どもは他の友達に教えるなど、子ども同士の教え合いの場面が自然と見られます。子どもたちのICT機器に対する興味が学習意欲の向上にも繋がっていると感じているので、今後はタブレットに触れる回数を増やしていきたいと思います。



大城 郁子 教頭先生

運用 浦河町が目指すもの

浦河町では今年度、秋田県(学力)・ICT(自主学習・先見性)・道徳(心・AL)の3つをキーワードに教育行政を行っています。

● 学力だけでなく心の育成も大事

浦河町では『心豊かでたくましく、自立していく子どもの育成』を教育目標に、今年度は「秋田県との交流」「ICTの促進」「道徳教育の充実」を3つの柱として取り組んでいます。

「学力とICTと道徳は密接に絡んできます。ICT機器を活用し、学力を上げるのはもちろん、学力を伸ばすには心の育成が必要です。学力と心の育成は両輪だと考えています」と岡内教育長。学力と心の両方を育てながら、子どもたちの成長を見守っています。



● 今後の活用について ●

今年度はタブレットに慣れ、基礎学力の定着を図る1年として位置づけてきました。そして今後は、タブレットを授業の中で子ども同士の**双向の学び合い**に活用し、また協働的に活用することで**プレゼン能力の育成**を目指していきたいと考えています。

そして、eライブラリのマイページ機能を有効活用し、**コインが貯まつたら表彰**するなど、楽しみながら学んでいくことで、自ら学ぶ楽しさを知り、授業も楽しくなって欲しいと感じています。



▲毎月のメダルによってコインが貯まります